

VISTA 5 SR ユーザーレポート

株式会社フジテレビジョン 様

VISTA 5 SR



VISTA 5 SRを国内初導入



株式会社フジテレビジョン
技術局 制作技術部
音声
鈴木 岳登

実は奥が深い競馬中継

VISTA 5 SRを導入するきっかけとなったのが毎週日曜日に行われる競馬中継で使用していたミキシングコンソールの更新です。競馬中継は中山競馬場、東京競馬場ともにスタジオセットを競馬場の一部屋に造りそこから放送しております（常に生放送で！）。そのスタジオセットのすぐ脇に音声はシステムを組んでいます。セットの脇なのでスペースが非常に狭いのですが、場内回線の端子盤がある場所という事でそこに組んでおります。まずそのスペースに置くことができるサイズ



のコンソールであることが、今回卓を選択する際の最も重要なポイントとなりました。競馬中継と一言でいいますが、有馬記念などのG1中継になると、番組のベースとなるスタジオ部分、レース前のパドック、本馬場入場、生のファンファーレ演奏、レース実況、検量室前での勝利ジョッキーインタビュー、といくつもの事象が重なりあっております。番組内容の幅も広く、レース結果及び配当の情報伝達、ゲストを交えてのバラエティトークショー、10万人近いお客が押し寄せるスポーツ中継、実は奥が深いのです。当然それぞれの事象で選択するマイクは変わってきますので、それに対応できる数の入力が必要ですし、それぞれの場所の出演者には単独で送り返しを作っているので多数の出力が必要になります。結果、ミキシングコンソールにも高度なものが要求されます。生放送ですので番組制作の性格上、常にフェーダーを動かす作業となり、その場合1面に30フェーダーは欲しくなります。このご時世、もちろん5.1chサラウンドに対応していなければなりません。せっかく導入するのだから、競馬中継以外にも音楽番組の48chマルチ収録にも対応させたい、その場合HAは48ch分あったほうがいいですし、MADI信号でPROTOOLSとやり取りできれば・・・と要望はどんどん増えていったのです。各社様々検討した結果、VISTAはCXのスタジオに

も既に4台が導入されており、操作性に優れていることは事前に確認済みでしたし、前述したとおり、システムをセットの脇に組むのでDSP COREやSTAGEBOX、デスクのファンの音が静かであることなどもポイントアップの要因でした。

導入後初めてMIXしたG1は皐月賞でその音を聞いた時、やはり選択は間違っていないと思いました。また今回の卓導入の際、フライトケースにもこだわりを入れました。ケース自体が変形し、ミキシング台となります。今後はオリンピックなどのイベントで空を飛ばし、海外に連れて行きたいなども考えております。当面は競馬場のお役目がありますので、そちらで責務を果たしていただく必要がありますが・・・これからもVISTA 5 SRは数々の競馬名実況を奏でてくれるのだと思います。

